

8.4 生物・生態系

8.4.1 調査事項

調査事項は、表 8.4-1 に示すとおりである。

表 8.4-1 調査事項

区 分	調査事項
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木保全を基本とし、苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を可能な限り残す計画としている。 ・苑内の一部の樹木は移植を行いつつ、適宜、新植樹木を配植して緑量を確保する計画としている。 ・世田谷区みどりの基本条例(平成17年世田谷区条例第13号)における基準緑化をそれぞれの敷地(北エリア、南エリア、公和寮エリア)で満たし、北エリアで約79,410m²、南エリアで約5,370m²、公和寮エリアで約860m²とする計画としている。 ・苑内で親しまれてきたお花畑やウメ、サクラ、メインアリーナやグラスアリーナ周辺のフジ等を集約し、一年を通じて見どころのある広場とする四季の広場のほか、はらっぱ広場・子ども広場として拡がりのある大きな草地の広場を設ける計画としている。 ・注目される植物のうち、自生種のギンラン、キンラン、クゲヌマランについては、生育エリアの工事計画に応じて現位置での保全または保全エリアである武蔵野自然林内に可能な限り移植する計画とし、移植を実施する際には、時期、場所等を適切に対応する計画としている。 ・十分な植栽基盤(土壌)の必要な厚みを確保する。 ・注目される植物のうち、日本庭園付近で確認された植栽種のハンゲショウ、ホトトギス、カキツバタ、シランについては、新設する池に移植する計画としている。 ・主に日本庭園の池を生息地としているニホンイシガメ、クサガメ及び池に生息するコイ等の魚類は、工事前に日本中央競馬会の所有する別施設の池に移動する計画としている。

8.4.2 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺地域とした。

8.4.3 調査手法

ミティゲーションの調査時点は、工事の施工中の平成30年4月～平成31年1月とし、調査手法は、現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。

8.4.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.4-2(1)及び(2)に示すとおりである。生物・生態系に関する苦情は、平成30年4月から平成31年1月までになかった。

表 8.4-2(1) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	実施状況
<ul style="list-style-type: none"> 武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木保全を基本とし、苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を可能な限り残す計画としている。 	<p>武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木保全を行っており、はらっぱ広場やナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等についても保全を行っている。いずれも、おおむね良好に生育していることを確認している。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 苑内の一部の樹木は移植を行いつつ、適宜、新植樹木を配植して緑量を確保する計画としている。 	<p>苑内のモミジ、サクラ、エノキ、クヌギ等約50本については、平成29年4～6月にはらっぱ広場、サクラドレッサージュ、放牧場等外構部へ移植を行ったほか、場外への移植も行った。また、プランター用樹木として、平成29年7月にサルスベリ等約10本を移植した。いずれも、おおむね良好に生育していることを確認している。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 世田谷区みどりの基本条例(平成17年世田谷区条例第13号)における基準緑化をそれぞれの敷地(北エリア、南エリア、公和寮エリア)で満たし、北エリアで約79,410m²、南エリアで約5,370m²、公和寮エリアで約860m²とする計画としている。 	<p>緑地の整備を一部開始している(写真8.4-1)。緑化面積については今後確認し、今後のフォローアップ報告書において報告する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 苑内で親しまれてきたお花畑やウメ、サクラ、メインアリーナやグラスアリーナ周辺のフジ等を集約し、一年を通じて見どころのある広場とする四季の広場のほか、はらっぱ広場・子ども広場として拡がりのある大きな草地の広場を設ける計画としている。 	<p>緑地の整備を一部開始している(写真8.4-1)。四季の広場、はらっぱ広場・子ども広場等の整備状況については今後確認し、今後のフォローアップ報告書において報告する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 注目される植物のうち、自生種のギンラン、キンラン、クゲヌマランについては、生育エリアの工事計画に応じて現位置での保全または保全エリアである武蔵野自然林内に可能な限り移植する計画とし、移植を実施する際には、時期、場所等を適切に対応する計画としている。 	<p>注目される植物であるキンラン、ギンラン、クゲヌマランについて、地上部の個体確認が可能な平成29年4月から5月上旬に、植物の特性に配慮し、移植個体の根を傷めたり周辺土壌を乱さないよう、過去の対応事例として文献等で提示されているボイド管を利用した掘取り等により、作業時に現地で確認されたうち、掘取り対応可能な状態のものについてはすべて、武蔵野自然林内に移植した。いずれも、おおむね良好に生育していることを確認している。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 十分な植栽基盤(土壌)の必要な厚みを確保する。 	<p>植栽基盤の整備を一部開始している(写真8.4-2)。植栽基盤の厚みについては今後確認し、今後のフォローアップ報告書において報告する。</p>

表 8.4-2(2) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	実施状況
<ul style="list-style-type: none"> 注目される植物のうち、日本庭園付近で確認された植栽種のハンゲショウ、ホトトギス、カキツバタ、シランについては、新設する池に植栽する計画としている。 	<p>日本庭園付近で確認されたハンゲショウ、ホトトギス、カキツバタ、シランは、新規に植栽されるものであることから、工事完了後に植栽の状況を確認し、今後のフォローアップ報告書において報告する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 主に日本庭園の池を生息地としているニホンイシガメ、クサガメ及び池に生息するコイ等の魚類は、工事前に日本中央競馬会の所有する別施設の池に移動する計画としている。 	<p>フォローアップ報告書（開催前その1）で報告したとおり、日本庭園の池に生息するニホンイシガメ、クサガメ及びコイをJRA馬事公苑宇都宮事業所の池に移動した。</p>



写真 8.4-1 緑地の整備状況



写真 8.4-2 植栽基盤の整備状況